

平和市長会議

「1945年8月、広島・長崎両市は一発の原子爆弾により一瞬にして廃墟と化し、何万人もの尊い命が奪われました。被爆者が高齢化する中、平和市長会議は、被爆者自身の被爆体験や平和への思いを次世代の人々が共有し、さらにその思いが世界に広がるようにしたいと考えています。平和市長会議の加盟都市が、世界の都市を含め4,800を超えていることを見れば、世界中の市民が核兵器のない世界の実現を強く求めていることは明らかです。

2020年は原爆が投下され75年は草木も生えないと言われた正にその年であり、平和市長会議は、世界の都市と共に、2020年までの核兵器廃絶を目指す「2020ビジョン」に取り組んでいます。

以上の趣旨に賛同し、核兵器等の無い、平和な世界を子供達に継承していくため「平和市長会議」に加盟する。

平成22年7月1日
淡 路 市 長

非核平和都市宣言

真の世界平和を求めることは、人類共通の願いである。

人類にとって、初めての原子爆弾が広島及び長崎に投下され、日本は、原子爆弾による唯一の被爆国になった。

その後、日本は、広島及び長崎の悲劇が繰り返されてはならないと、国際社会に「核兵器の全面的廃絶」を強く訴えてきたが、今なお、近年の世界情勢をみると、核軍備が依然として続けられている等、平和を脅かす問題がなお存在している。

世界の平和は、すべての人の人権を尊重するとともに、国籍、民族、宗教、歴史、文化等の違いを互いに認め合い、多彩な交流と友好のきずなを結ぶ中で築いていくものである。

淡路市は、日本国憲法の基本理念である恒久平和と国是である非核三原則を踏まえ、核兵器の速やかな廃絶を強く訴え、国際社会の平和と発展に貢献することを誓い、ここに「非核平和都市」を宣言する。

平成22年3月12日
淡 路 市 長

平和都市宣言に関する決議

平和は、人間として生きるための基本であり、全世界共通の願いです。

私たちの生活も、本旨のまちづくりの理念である「人間尊重に根ざした市民都市の創造」の実現も、真の恒久平和なくしては望めません。

このため、私たちは平和の重要性とこれを脅かす核兵器の廃絶を全世界に訴えるとともに、本市が非核「平和都市」であることを宣言します。

以上、決議する。

平成17年12月22日
淡路市議会